



社四殿木御

住吉神社の御由緒

御祭神

- 第一本殿 底筒男命そきつつのおのみこと
 - 第二本殿 中筒男命なかつつのおのみこと
 - 第三本殿 表筒男命うらつつのおのみこと
 - 第四本殿 息長足姫命いきながあしひめのみこと (神功皇后)
- をお祀りしてあります。
- 底筒男命・中筒男命・表筒男命を総称して住吉大神と申し上げ、伊弉諾尊が筑紫の日向の橘の小戸の橘原に襖被せられたとき、生れませる神様であります。

御神徳

住吉大神は伊弉諾尊が黄泉国のけがれを清める襖被に当って、お清め申し上げる働きをせられた神様ですので、古来神道の重要な行事である「被除」を司り、諸の禍、罪、けがれを「おはらい」になって、清く、明るい、健康な生活を御守護下さる御神徳を有せられます。

又海上守護、産業、和歌文学の祖神と仰がれ、交通安全、商工業、学業の守護神であります。又謡曲「高砂」に住吉、高砂の松の相生のめでたきえにしにたえて、住吉明神の御神徳を讃えております通り、夫婦の交らぬ契を見守り給う神様であります。

又御祭神の神功皇后が住吉大神の御神威により、品陀和氣命を御安産になり、大層すぐれた御成長をなされて応神天皇(八幡大神)となられたところから「安産と育児を守る神」として信仰されております。

御鎮座

神功皇后は新羅国へ遠征に当って、住吉大神の御加護を得て、大いに国威を輝かされましたが、そのご親征の時、播磨灘で暴風に遭われ、当地に上陸ご滞泊になり、神籬をたてて、住吉大神に平穩を祈願されたところ、波風たちまちおさまり、御軍はつつがなきを得られたと伝えられております。又その時に皇后の着衣を、松の枝に掛けて干されたのが、風にたなびいて錦のように美しく見えたので、当地を「錦ヶ浦」と名付けられたと云われております。

神功皇后によって、摂津の国住吉に御鎮祭せられました住吉大明神は「吾が居住はむと欲りする処は、播磨の国に渡り住はむ」と、お告げを出された。

そこで大藤を切つて海に浮かべ神意を伺ふと「この藤の枝の流れ着く処に、我を鎮祀れ」とご託宣なされた。藤は当地魚次浜に流れ着いた。(住吉大社神代記より)

この御神慮によって雄略天皇の八年(西暦四六四年)四月初卯日に此の地に勧請してお祀りしたのが当住吉神社であります。

以後魚住庄(現在の久保町南部も含む)の総鎮守社として住民に崇敬されてまいりました由緒のある古社であります。

住吉神社祈願詣り

交通安全・車被・厄除・地鎮祭・初宮参り・安産育児

電話 (078) 94610417

